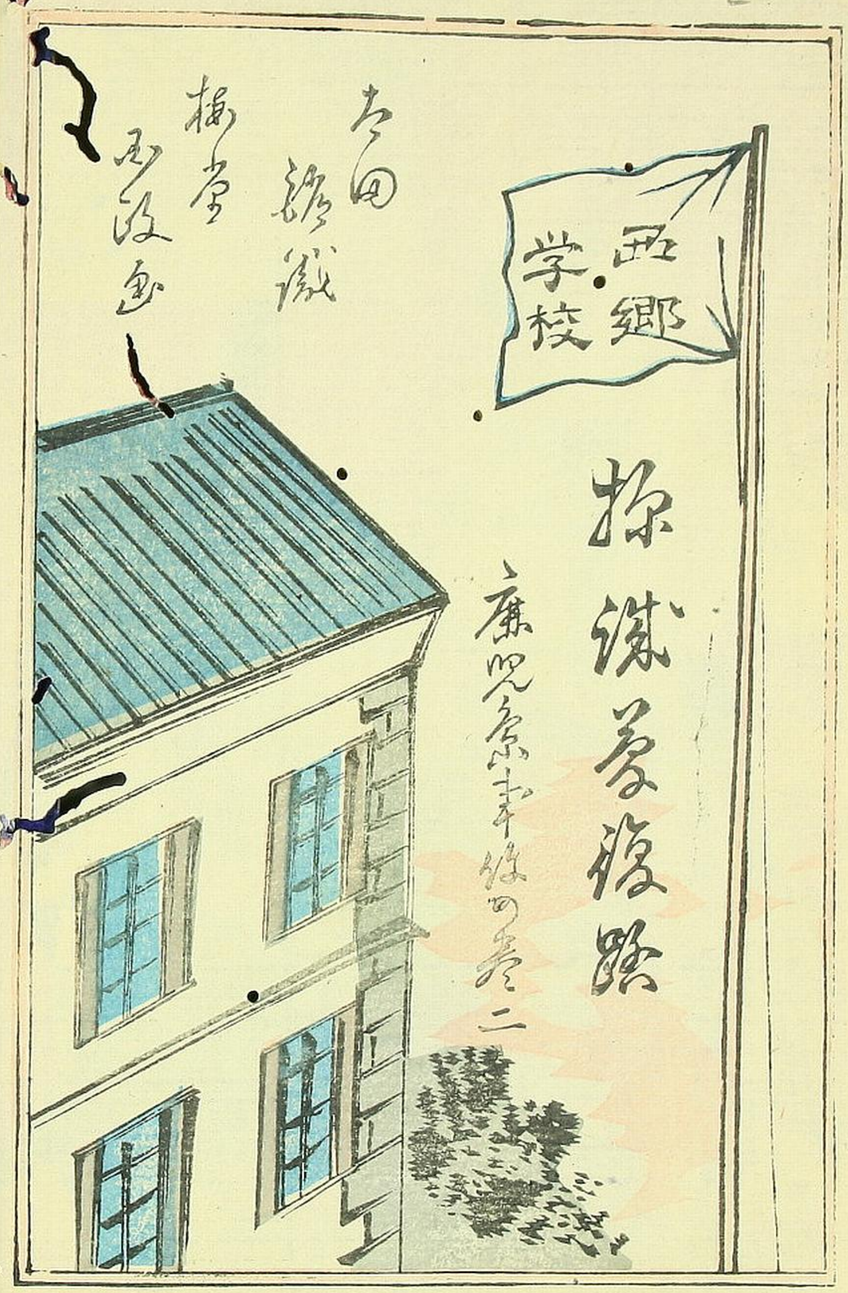
沼九桂一郎編輯
探誠夢
復路二
廣嶋事件巻

A×19
2



鹿児島事件ノ巻下

太田錦識

西郷氏の邸へ大ぜい来り見物ども我輩ども四国言いわれと激論なせしが西郷氏はあまりに痛ぜらまび條理のいる所をとつくと説諭されしが士族共は一向納せざるこの激を発し止まらぬ勢ひなりうん何ともへう通まられし島津久光公も甚だしく暴徒の説ゆる国意せられ然まびまのさく不平士族の一意ゞ暴動ゆ激若国安康児島ゝ之邦九土素ゝ即今の船場と政府へ上申なさんと英気形で康児島の港より出船合へ

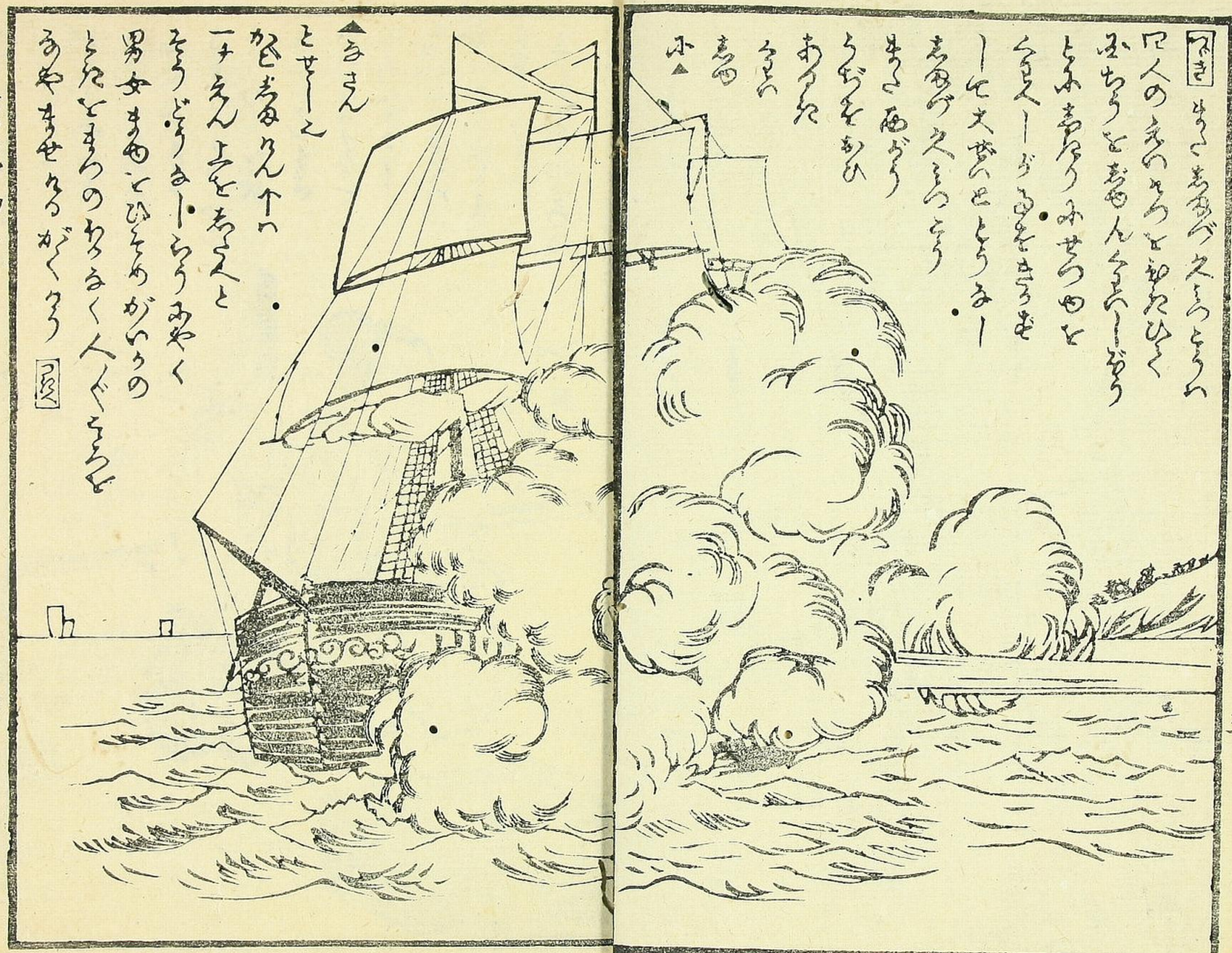
48-7853

さて一ゲがつうとぐ
地をとうり大ゲうをニッぞう
うちみたりーぶさいつひみ物を
かまつて なまぐさつとうとまとう
ちぶや国安いのがまて作ア
さーりたりぐうとものいみ
そびしく十日のだんかを書ま

あのうかの
きんそんうく
せんどうのせーハこま
れのちんどんへだうとこ
きとうぐうさをくらも
ちあつちゆうのーく大せんと
ゆりそうせんうたきのぞと
さーこぶさうとうこと

けゞ人かぶを
あれをたゞひよ
めいぐーたる
そろいかぶ
あるえんや
ぐまか
ざらみ
ちりたこちう
だのちのえう
ゞへたる水まさと
ひふりんをうりかぐさを
こをありとりみ山ゝ及び
ふまびちうせんとうう

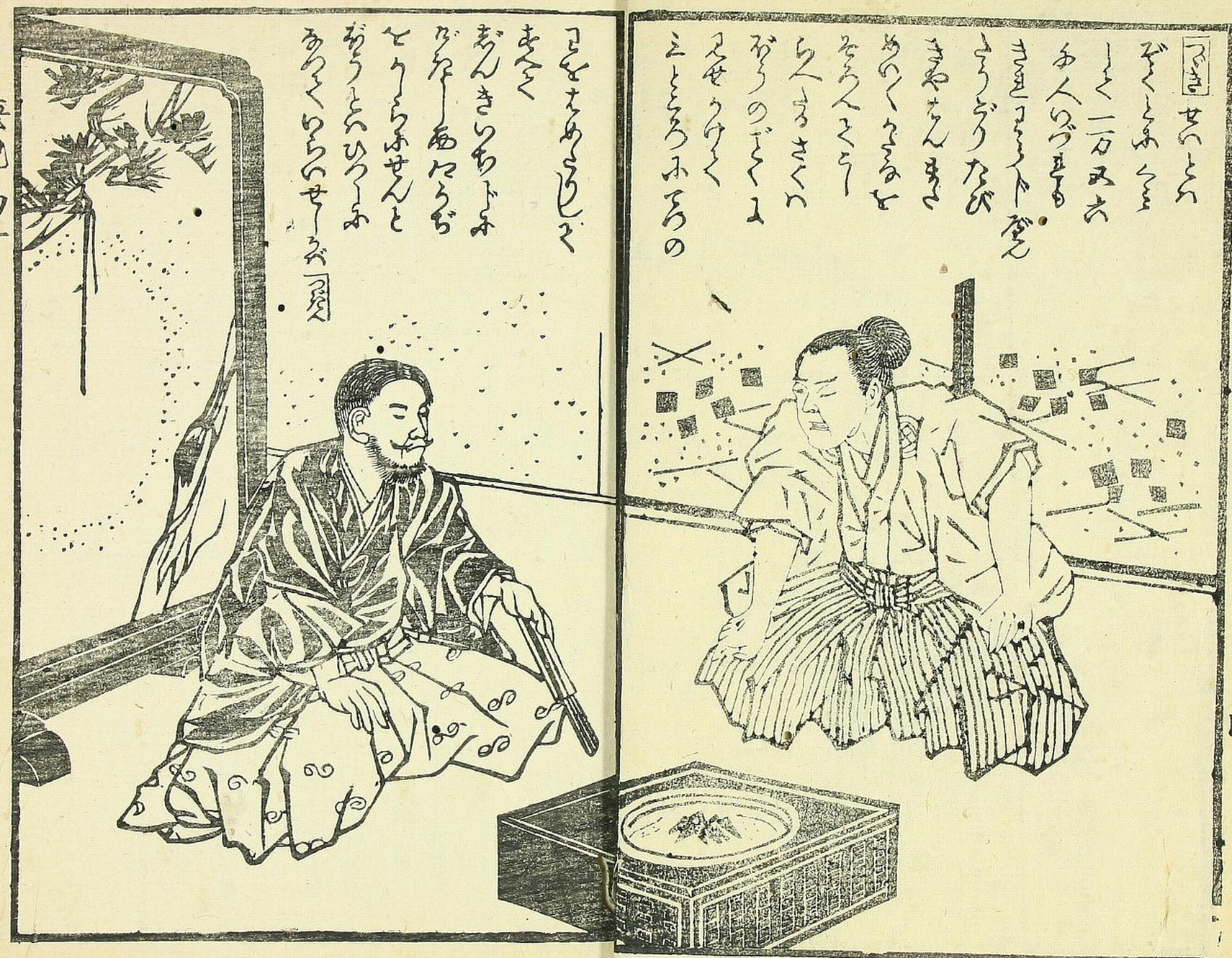
ぐうこちんぐへのんぐあんさ
かぐさがかぐへーく
ひちーみたうん
ぐう ぐぐくちうもゆぶちく
ちりぐみみげさりーぶ ぐあんさ
ぐさをを死けゞ人けりん
かの地とりぐた
ぐうりぐくとを数十人
ちちとるぐうとん
みげさりーぶ・うん
りん二十人ぐたん
さくよりりをーぶ
いまぐかりう年ぐ



ずき　きさきあまべ　えらうとうの
ロ人のえのきつとおたひく
ふちうとあんくえしぞう
とふきうりみせつめと
くえしーぢをきうも
しーたえとうみー
きあべえうう
きさあうう
うちをあひ
あうた
うえ
あ
ふ

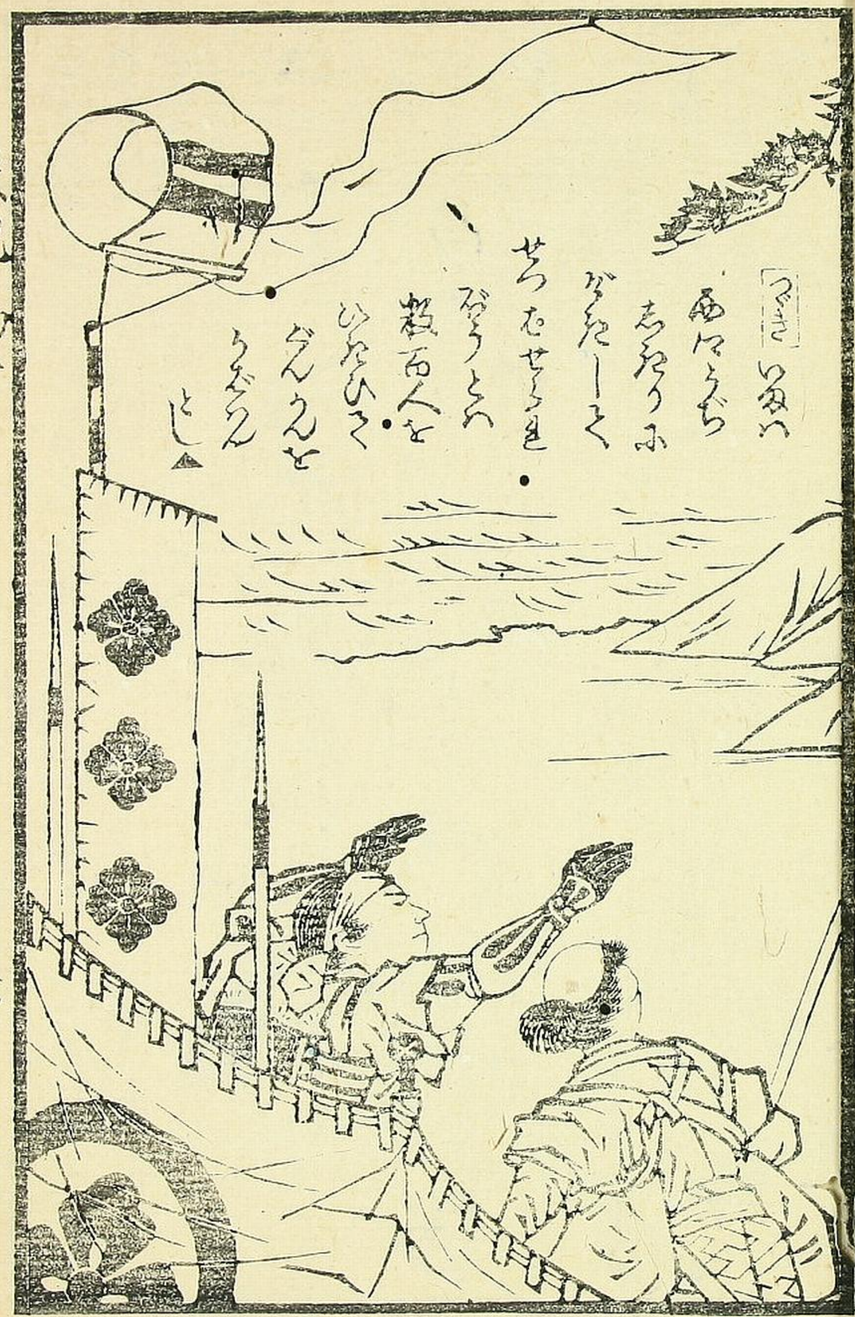
▲おうん
とせーと
ぬきあるえんけの
一ナえんとをあえと
うどうみーらうみやく
男女まあとひそめがいうの
うたとまつのあるく人ぐうう
あやきせるがくう

つぎ　せいとん
ぞくとふくを
しく一方みた
ふ人いづれも
きまつてゝ
ようどうなび
きあたんまき
めのくさるを
そろへくさり
ひんまきくい
ぞうのごとく
ゴをうけく
ふとゝろふたの



ゴをさめうしさ
まをく
ぎんきいちどふ
ぐをーあたらぎ
とうらふせんと
ぞうとんひろーふ
あつくいらいせーぐ

▲きさへう
らうを
たくへん
もてな
みうちのつも
あくにを
ぎろんをと
せれ月月
十日よあ
ゑへぐぐの
山ざさんぎ
ぐかうを
生ぞう
まの



つゞき
あくにを
ちらつふ
ぐたーく
せちをせうを
ぐうとん
数百人を
ひきひく
ぐんえを
うぐろ
とし▲

つぎ　高ちゃんと長崎十の女たへ来縁
半鐘とうちたつひとりて
高ちゃうさかうの大坂
ちんぶいうまぞみ
出へいとあり
絵
長ちゃんへ
ちゃくーちうまさ
あとくひとりくるうどう
たげーくさんぶーよう
ぶかのぶ山ぎたるおれ
ぶくあとくとくはさう
まさ海分者の山村海軍
大場へ出さたまちう
よんぐんとあうう
かくあまうせんそかど

者みあひう
とうまさ二月
十三日ニ船十
みうよ大久保内蔵
ひ月ア新大書記官と
外ま一人ふくふ玄武
九とは月せんとうく
のうとさ者を
者うちんせーげまさ
者尾ひくぐ分の
中新海ちん新条
栄光中者のぶ山
者ぶ久光ちうの者長
新条ちぶも月せんーとうと
者うちんのうる又十四月ハ海軍
かど者へさ和ひあり薩新さう者と高者へぐんかんとうく

つゞき

かくあづかつた西海一名
西洋ふ日本せんあるひは西洋
ふぜうきせんまでは
とりかこまきんのいまた
せもめくらんこんふる
あるーあるそげふもぐんへの
八名だんのうちのたくもも
かくやとだろうきさ明治
九ねつくらのまこ
二人と開たく後のちんいん
一人そのあるうふぐくのものが
十人余とそのうちちくきうさと
ホンのあそくのうちきう
きうちのりきうんしかど
きあくうきあるとぎやくめいど
うけるとちんぶのたあ きうきう

▲云ゞ一大
ホンホン
あふのう
ミ和ゲへ
なみてきあつちん
ヒ

▲きう
西ふの
きう
のゞ
えみ
かあるる
かごーまぐう
とのせいいうへ
ぐんへよとたべ
十六七名ふ
義サ廿七八
名のぐいたと

地へきあうちあうあせーゞきるかど
きるのぞうとんぶ方余人のへんと
ふのさうのくへさもうせーゞそのうた
うひうぐんつへいとんぶまぐうるな
ようあふゆうびんもとあううふぐくのす
ぐゞさうだぐーゞうそうあせーと
義形のきんぐみうんぐんのかるあと
あうた又ふとうかけうきあう
ちあうトだうさどかぐくうせ
しゞうまりとあるひいきんぐく
きんへんの名ぐうんうんられ
ぐの西とくきぐんうあのうさぐへ
めくホぐくんぶちりしりふのとみ
ぶんあうたうとたいちんぶるさんと
おひくふきあうあまと又二月十四日ふ
ホホうう近海芸ゞ一大ホんとちんぐん▲

010190509740

平假名新聞稚繪解

梅堂輯　國政画

初号ヨリ追々出版

三芝居當狂言

東京土産

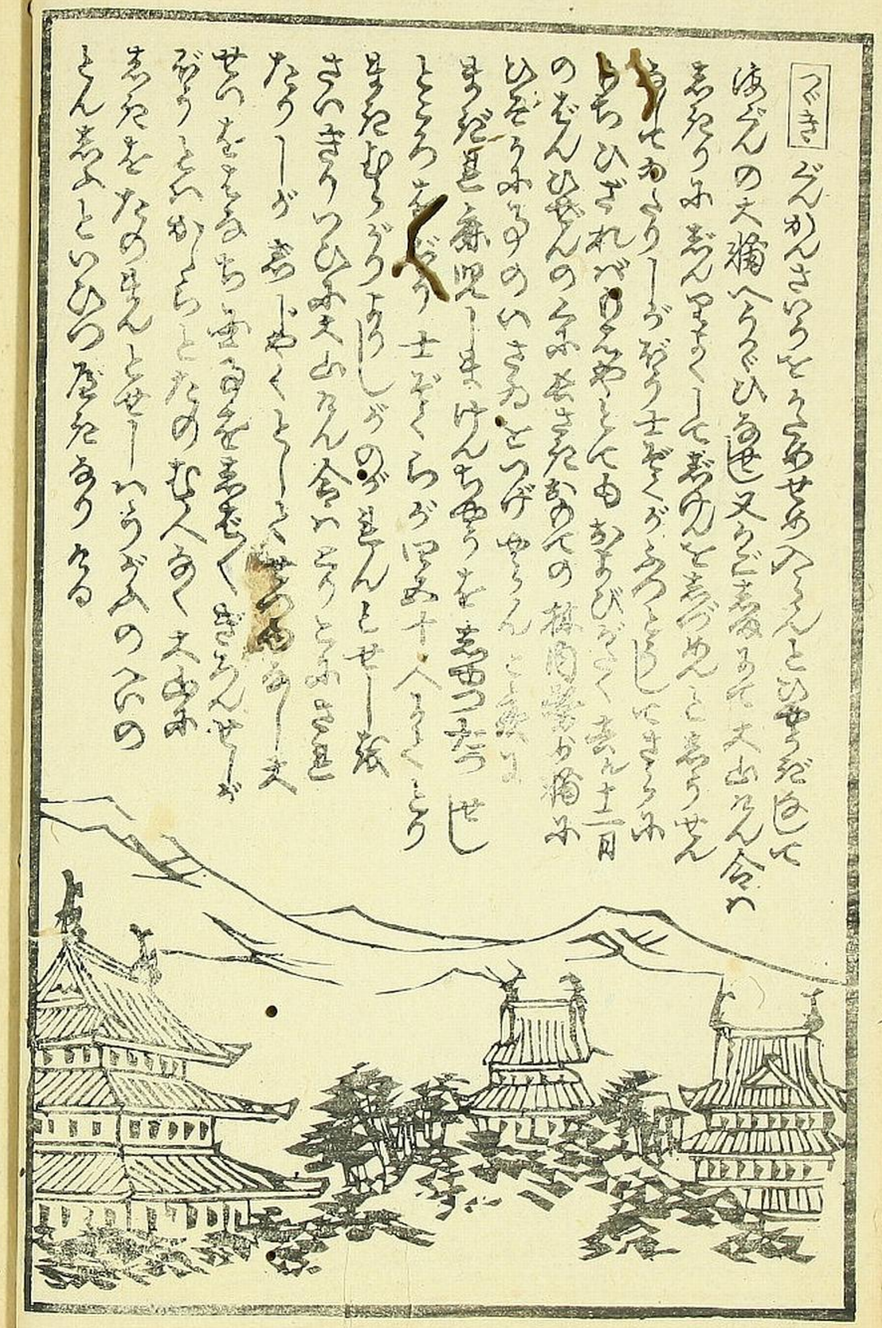
一鶯齋國周画

慶安邪正錄

弄月亭有人作
一蕙齋芳幾画

七草武勇傳

弄月亭有人畧傳
一蕙齋芳幾画

東京 定價三錢 亀遊堂 亀井町 近江屋久次郎梓

つゞき　ごんかんさいろとうあせあつくんとひやちゐて
ゆゞんの大猶へうぐひうを又うゞこあるうそ大山うん合へ
まろうゐまんまくくしてまりかとまりめくとまうせん
あせあうりーゞぞうさぐうろくしたまうゐ
ちひざれゞひんやくとんもおうびうくくまん十一月
のぞんひやんのうゐまさたおうての相国寺か猶ゐ
ひそうゐうのいさうとつげやうんくとまゐ
まだ是無限ーまけんちあうを芝西つたうせし
ところそぐう士ぞくらゞ四千人へうくくとう
またなうぐうようしゞのゞまんとせーー紙
さんきうつひゐえんうん合いとうとゐまを是
なうーゞおーやくとーくまうもうーえ
せのをとまちを西をまくきうんせーゞ
ぞうとんからとなのなんあくえゐまゐ
またをなのまんとをーいうゞんのゐの
とんまくといひつをたをうる